症例報告

マンチェスター手術既往のある子宮筋腫患者に対して、 Hybrid vNOTES (transvaginal Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery) を施行した1例

長岡中央綜合病院、産婦人科;産婦人科医¹⁾、長岡赤十字病院、産婦人科;産婦人科医²⁾

背景: Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery (以下 NOTES) は自然孔を利用することにより 低侵襲化した内視鏡手術であり、婦人科領域で は経腟的 NOTES (transvaginal NOTES:以下 vNOTES) が近年急速に普及している。今回、既往手術により vNOTES 単独あるいは従来の腹腔鏡手術単独では手術困難な症例を、臍からの 腹腔鏡視野を併用した vNOTES (以下 Hybrid vNOTES) で安全に施行できたことを報告する。

症例内容:患者は42歳女性で、妊娠分娩歴は4妊2産 (経腟分娩2回)、27歳時に子宮脱と腹圧性尿失 禁の診断で、マンチェスター手術と経閉鎖孔式 尿道スリング手術を施行している。42歳時に子 宮筋腫と過多月経の診断で子宮全摘の方針とな り、既往手術による子宮下部の解剖学的偏位が 予測されたことから、Hybrid vNOTES による手 術を選択した。臍部に5mmポートを設置して 骨盤腔内を観察、GelPOINT® V-Path (経腟的内 視鏡手術専用のプラットフォーム)を設置可能 と判断し、腟式操作へ移行した。腟粘膜を剥離 し、前回手術で子宮頸部前壁に縫縮した基靭帯 を含む諸靭帯を切断、頸部後壁に縫縮した仙骨 子宮靭帯も切断し、腟からの直視下と臍からの 鏡視下で確認しながら、膀胱子宮窩腹膜とダグ ラス窩腹膜を切開して腹腔内へ到達した。腟に GelPOINT® V-Path を設置し、腟式腹腔鏡下に子 宮傍組織の切離を進め、子宮と卵管を経腟的に 摘出した。手術時間は3時間20分、出血量は 213 mL、摘出した子宮と両側卵管の重量は 377 gであった。術後経過は良好であり、術後 3日目に退院とした。

結論:既往手術により解剖学的偏位のある子宮筋腫患者に対して、経腟操作と経腹視野を組み合わせた Hybrid vNOTES を選択することにより、安全かつ低侵襲に子宮全摘術を行うことができた。

キーワード:マンチェスター手術、子宮筋腫、Hybrid vNOTES (transvaginal Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery)、VANH (Vaginally Assisted NOTES Hysterectomy)

背 景

近年、内視鏡手術の低侵襲化が進んでおり、体表に 傷を作らずに自然孔を利用して腹腔内へアプローチす る Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery (以下 NOTES) が、消化器外科、泌尿器科、婦人科などの領 域で広まりつつあり、経食道的、経胃的、経直腸的、 経膀胱的手術など、様々な方法が試みられている(1)。

婦人科領域では経腟的 NOTES (trasnsvaginal NOTES: 以下 vNOTES) の報告が増加しており、本邦では2021 年 4 月から経腟的内視鏡手術専用の医療機器として GelPOINT® V-Path (Applied Medical, Rancho Santa Margarita, CA, USA) が使用可能となり、婦人科手術の選択肢の1つとして急速に普及している。

Hybrid vNOTES とは、臍からの腹腔鏡視野を併用した vNOTES のことであり、vNOTES 導入初期や癒着症例などにおいて安全性の確保を目的として行われている(2-3)。今回我々は、子宮脱手術であるマンチェスター手術により子宮下部の解剖学的偏位を来した子宮筋腫患者に対して、Hybrid vNOTES を用いて安全に低侵襲手術を施行できた症例を報告する。

症例内容

患者は42歳女性で、妊娠分娩歴は4妊2産(18歳人 工妊娠中絶、21歳 経腟分娩、23歳 自然流産、24歳 経 腟分娩)。初回分娩後から子宮下垂感があり、27歳時に 子宮頸部延長主体の子宮脱 (POP-Q: Stage II) と腹圧 性尿失禁の診断で、マンチェスター手術と経閉鎖孔式 尿道スリング手術(trans-obturator tape operation:以下 TOT 手術) を施行している (図1)(4)。マンチェス ター手術は子宮を温存する子宮脱手術であり、本症例 の場合は子宮頸部を 4 cm 離断し、残存頸部前壁に基 靭帯を含む諸靭帯を縫縮固定し子宮を前屈させ、頸部 後壁に仙骨子宮靭帯を縫縮固定しダグラス窩を補強、 余剰の腟壁で子宮頸部を再形成している (図2)。TOT 手術では、腟前壁の中部尿道部を小切開し、ポリプロ ピレン製メッシュテープを経閉鎖孔的に留置しており、 このテープは今回の Hybrid vNOTES における手術操作 の範囲外にある (図3)。術後、子宮脱や尿失禁の再発 はなく妊娠もなかった。

42歳時に過多月経を主訴に来院、子宮筋腫と貧血を認め、手術希望があり子宮摘出の方針とした。腟鏡診では、子宮腟部は陥凹していたものの単鈎鉗子で牽引可能、経腟超音波では、ダグラス窩に腹水を確認できダグラス窩閉鎖は否定的であった。MRIでは、子宮左側壁筋層内に長径10cmの子宮筋腫を認め、ダグラス窩の一部に既往手術による肥厚が疑われた(写真1)。術前に筋腫縮小および貧血改善を目的として、レルゴリクス(GnRHアンタゴニスト)を1か月間内服レし、不正出血が持続したためその後はリュープロレレンに(GnRHアゴニスト)を2回皮下注射した。手術歴と診腹腔鏡手術単独ではなく、経腟操作を主体とし経腹視野を併用したHybrid vNOTES を行う方針とした。

患者体位は砕石位で、vNOTES 操作時には頭低位 20°とした。臍部に 5 mm ポートを設置し 5 mm 径の 2Dフレキシブルカメラを挿入、気腹圧を8mmHgと して腹腔内を観察、骨盤腔内に大きな癒着がなく GelPOINT® V-Path が設置可能であることを確認してか ら腟式操作へ移った。腟前壁を切開して膀胱を剥離す ると、子宮頸部前壁に前回手術で縫縮した諸靭帯と思 われる索状組織を認め、直視下にENSEAL® X1 (Ethicon Endo-Surgery, Cincinnati, OH, USA) で切断した。頸部 後壁にも前回手術で縫縮した仙骨子宮靭帯と思われる 索状組織を認め、同様に切断した。膀胱子宮窩腹膜と ダグラス窩腹膜は肥厚していたため、腟からと腹腔内 からの観察を同時に行い、腹膜反転部を確認して腟側 から腹膜を切開し、腹腔内へ到達した。腟からの圧排 鈎の挿入、腹腔内からの内視鏡の光源や気腹圧による 腹膜の膨隆も参考所見として腹膜を切開した(写真 2-1) (写真2-2)。

膣に GelPOINT® V-Path(Alexis O リトラクター、GelSeal キャップ、10 mm スリーブ 1本、5 mm スリーブ 2本)をイントロデューサを用いて設置した(写真3-1)(写真3-2)。本手術で使用したカメラは1台のみで、先ほど臍から腹腔内の観察に用いたものをvNOTES でも使用した。腸管保護目的で骨盤腔内にミクリッツガーゼを留置し、ENSEAL® X1で子宮傍組織と卵巣動静脈、卵管間膜の切離を進め、子宮と両側卵管を切除した(写真4-1)(写真4-2)。検体は時間20分、出血量は 213 mL、摘出した子宮と両側卵管の郵量は 377 g、病理診断は子宮平滑筋腫と子宮腺筋症であった。術後経過は良好で、術後3日目に退院とした。手術から3か月後の診察では特に異常所見を認めず、当科終診とした。

考 察

2019年に vNOTES による子宮全摘術(Vaginally Assisted NOTES Hysterectomy:以下 VANH)と腹腔鏡下子宮全摘術(Total Laparoscopic Hysterectomy:以下 TLH)のランダム化比較試験(HALON 試験)の結果が報告され、VANH は TLH と比較して手術時間と在院期間が短縮し、術後疼痛が軽減し、術後合併症も減少している(5)。以前から婦人科領域では腟式子宮全摘術(Total Vaginal Hysterectomy:以下 TVH)は広く行われていたが、小さな子宮に限定され付属器手術は困難で

あるなどの短所もあり、近年は手術件数が減少傾向にあった(6)。vNOTES は腟式手術に腹腔鏡を付加することで、それらの短所を克服した新しい術式となり、国内外で導入施設が増加している。

vNOTES 可能な症例は従来の腹腔鏡手術も可能な場合が多いため、どちらの術式も選択可能な症例では、整容面などの理由でvNOTES が選択されることが多い。vNOTES が困難な症例としては、経腟分娩歴がなく腟が狭い場合や、既往手術により膀胱子宮裔が閉鎖あるいは子宮内膜症によりダグラス窩が閉鎖している場合などであり、そのような症例では従来の腹腔鏡手術や開腹手術が選択されている。また、vNOTES による場所を開腹・所の視野は従来の腹腔鏡の視野とは異なり一度に視認できる範囲も狭いため、vNOTES 導入初期や癒着のある症例では、安全のため経腟と経腹の2つのカメラを併用した Hybrid vNOTES を行っている施設も多い。

本症例では、既往のマンチェスター手術で子宮頸部を切断し子宮支帯を移動したことにより、子宮下部の組織の肥厚や周囲の構造物の偏位が予測された。そのため、vNOTES 単独や従来の腹腔鏡手術単独での子宮摘出は難しく膀胱・尿管・直腸損傷のリスクも高いと判断し、Hybrid vNOTES による手術を選択した。vNOTESで子宮摘出を行った利点としては、偏位のある子宮下部を直視下で処理でき、他臓器損傷のリスクを抑えられたことが挙げられる。また、経腹視野を存を抑えられたことが挙げられる。また、経腹視野を併用した利点としては、手術開始時に vNOTES の可容が開した利点としては、手術開始時に vNOTES の可容が調整合後に腹腔内出血の有無を確認できたことが挙げられる。vNOTES 単独と比較して臍の創が増えたが、開腹手術への移行や合併症を避けることができ、妥当な術式選択であったと考えられる。

vNOTES は、婦人科領域における1つのアプローチ 方法として子宮全摘術以外にも様々な術式が報告され ており、付属器切除術においてvNOTESと従来の腹腔 鏡手術の周術期成績を検討したランダム化比較試験 (NOTABLE 試験) では、HALON 試験と同様に vNOTES 群で手術時間の短縮、疼痛の軽減、鎮痛薬の 投与量減少を示し、従来の腹腔鏡手術に劣らない結果 であった(7)。付属器切除術以外にも、卵巣腫瘍核出 術、子宮筋腫核出術、仙骨腟固定術、センチネルリン パ節生検といったvNOTESの報告もあり、今後の発展 が期待される術式である(8-11)。

結 語

既往手術により解剖学的偏位のある子宮全摘術を、 Hybrid vNOTESで安全かつ低侵襲に行うことができた。 経腟操作と経腹視野を組み合わせることで、多様な症 例に対応できる可能性がある。

文 献

- 1. Santos BF, Hungness ES. Natural orifice translumenal endoscopic surgery: progress in humans since white paper. World J Gastroenterol 2011; 17(13): 1655-65.
- Terzi H, Turkay U et al. Hysterectomy and salpingooophorectomy by transvaginal natural orifice transluminal endoscopic surgery (V-NOTES) assisted by an umbili-

- cal camera: Case report and new hybrid technique in gynecology. Int J Surg Case Rep 2018; 51: 349-51.
- 3. 羽田智則、下村優莉奈他. 臍ポートから腹腔内観察を追加する Hybrid-vNOTES. 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 2023:39(1):28.
- 4. Madhu C, Swift S et al. How to use the Pelvic Organ Prolapse Quantification (POP-Q) system? Neurourol Urodyn 2018; 37: S39-S43.
- Baekelandt JF, De Mulder PA et al. Hysterectomy by transvaginal natural orifice transluminal endoscopic surgery versus laparoscopy as a day-care procedure: a randomised controlled trial. BJOG 2019; 126(1): 105–13.
- Guan X, Bardawil E et al. Transvaginal natural orifice transluminal endoscopic surgery as a rescue for total vaginal hysterectomy. J Minim Invasive Gynecol 2018; 25(7): 1135-6.
- 7. Backelandt JF, De Mulder PA et al. Adnexectomy by vaginal Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery versus laparoscopy: results of a first randomised controlled trial (NOTABLE trial). BJOG 2021; 128(11): 1782-01
- 8. Wang CJ, Wu PY et al. Natural orifice transluminal endoscopic surgery-assisted versus laparoscopic ovarian cystectomy (NAOC vs. LOC): a case-matched study. Surg Endosc 2016; 30(3): 1227–34.
- 9. Backelandt J. Transvaginal natural-orifice transluminal endoscopic surgery: a new approach to myomectomy. Fertil Steril 2018; 109(1): 179.
- 10. Liu J, Kohn J et al. Transvaginal natural orifice transluminal endoscopic surgery sacrocolpopexy: tips and tricks. J Minim Invasive Gynecol 2019; 26(1): 38-9.
- 11. Tantitamit T, Lee CL. Application of sentinel lymph node technique to transvaginal natural orifices transluminal endoscopic surgery in endometrial cancer. J Minim Invasive Gynecol 2019; 26(5): 949–53.
- 12. 武田佳彦編 産婦人科手術のための解剖学 第1版 東京:メジカルビュー社:1999. 128-31頁.
- 13. 藤原敦子. 【女性骨盤底医学の最前線】治療 腹圧 性尿失禁の治療. 排尿障害プラクティス 2021;29 (2):125-30.

英 文 抄 録

Case Report

A Case of Hybrid vNOTES (transvaginal Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery) Performed on a Patient with Uterine Fibroids Who Had a History of Manchester Surgery

Department of Obstetrics and Gynecology, Nagaoka Central General Hospital; Obstetrician and Gynecologist¹⁾, Department of Obstetrics and Gynecology, Nagaoka Red Cross Hospital; Obstetrician and Gynecologist²⁾
Yohei Kitani¹⁾, Dai Komata¹⁾, Rei Kurai¹⁾,

Shunsuke Fukazu $^{1)}$, Chisato Kasuya $^{2)}$, Hiroaki Kase $^{1)}$

Background: NOTES (Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery) is a minimally invasive endoscopic surgery that utilizes natural body openings, and in the field of gynecology, transvaginal NOTES (vNOTES) has rapidly gained popularity in recent years. In this report, we describe the successful and safe implementation of Hybrid vNOTES (combining a transabdominal view with vNOTES) to address cases that were surgically challenging with either vNOTES alone or conventional laparoscopic surgery alone, due to the complexity resulting from previous surgeries.

Case: The patient is a 42-year-old female with a history of gravida 4 and para 2 (2 vaginal deliveries). At the age of 27, she was diagnosed with uterine prolapse and stress urinary incontinence, for which Manchester surgery and trans-obturator tape (TOT) procedure were performed. At the age of 42, she was diagnosed with uterine fibroids and heavy menstrual bleeding, leading to the decision for a total hysterectomy. Due to the anticipated anatomical distortion of the lower uterus from previous surgeries, the decision was made to opt for surgery using Hybrid vNOTES.

A 5 mm port was placed at the umbilicus to observe the pelvic cavity. It was determined that GelPOINT® V-Path (a platform specifically designed for transvaginal endoscopic surgery) could be installed, and the procedure transitioned to a vaginal approach. The vaginal mucosa was dissected, and structures such as the cardinal ligaments, which were sutured to the anterior wall of the cervix in the previous surgery, were cut. The sacrouterine ligaments, sutured to the posterior wall of the cervix, were also severed. Confirmation was done both through direct visualization from the vagina and mirror visualization from the umbilicus. The vesicouterine peritoneum and Douglas pouch peritoneum were incised, allowing access to the abdominal cavity.

GelPOINT® V-Path was placed in the vagina, and the dissection of the parametrial tissue proceeded under vaginal laparoscopy, leading to the removal of the uterus and fallopian tubes. The surgery lasted for 3 hours and 20 minutes, with a blood loss of 213 mL. The combined weight of the removed uterus and both fallopian tubes was 377 g. The postoperative course was uneventful, and the patient was discharged on the third day after the surgery.

Conclusion: For a patient with anatomical distortion of the lower uterus due to previous surgeries, we were able to perform a safe and minimally invasive total hysterectomy by choosing Hybrid vNOTES, which combines vaginal manipulation with abdominal views.

Key words: Manchester surgery, uterine fibroids, Hybrid vNOTES (transvaginal Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery), VANH (Vaginally Assisted NOTES Hysterectomy)

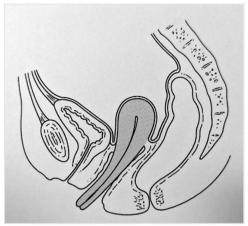


図1. 子宮頸部延長主体の子宮脱(12)

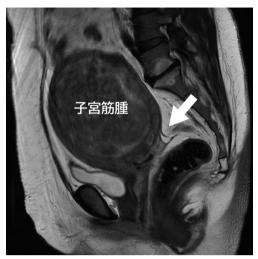


写真1. 術前MRI(矢印はダグラス窩の肥厚した部分)

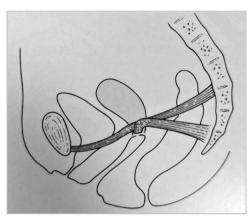


図2. マンチェスター術後の子宮(12)



写真2-1. 臍からの視野① (膀胱子宮窩腹膜に透見する 圧排鈎)

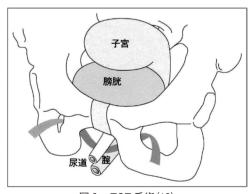


図 3. TOT 手術(13)



写真2-2. 臍からの視野② (開放されたダグラス窩腹膜)

厚生連医誌 第33巻 1号 52~56 2024



写真3-1. GelPOINT® V-Path の設置後①



写真4-1. vNOTES の視野① (左子宮傍組織の切断前)



写真3-2. GelPOINT® V-Path の設置後②

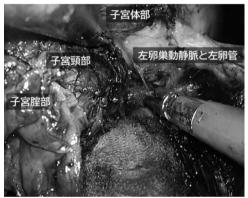


写真4-2. vNOTES の視野②(左卵巣動静脈の切断前)